

# 連携室たより

第 66 号

平成 26 年 12 月 1 日  
出雲市姫原 4 丁目 1 番地 1  
島根県立中央病院 地域医療連携室  
医療連携・医療相談科

TEL 0853-30-6500

FAX 0853-30-6508



## 内分泌代謝科の紹介

内分泌代謝科部長 伊東 康男



糖尿病、高脂血症、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍、副腎疾患、下垂体機能異常などの広範囲の疾患を扱っています。外来は月曜から金曜まで毎日開いており、多数の患者様に対応しています。

当院は糖尿病学会認定教育施設であり、糖尿病教育入院（12日間）をはじめ、いろいろな病態に即した治療を行っています。専門医2名と後期研修医1名にて糖尿病診療にあたっておりますが、糖尿病患者の増加に歯止めがかからず、医師だけでは対応しきれない状況が続いています。そこで当院では、糖尿病療養指導士（CDE）の育成に積極的に取り組んできました。その結果、島根県では最も多い19名のCDEが院内外で活躍しており、職種も看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士に広がり、さらに現在、臨床検査技師、理学療法士も、資格取得に向け研修中です。これらのCDEを中心に2012年には糖尿病療養支援チームが院内に発足しました。その後2013年には、チームは糖尿病療養支援委員会に発展し、多職種のメンバーが協力しあい、透析予防指導やフットケア外来等の臨床現場での患者への直接的な療養指導だけでなく、糖尿病友の会の支援や糖尿病新聞の発行などの啓発活動にも取り組んでいます。毎年、11月14日の世界糖尿病デーには、糖尿病の啓発イベントを実施してきましたが、今年は11月15日（土）に、島根県出身の1型糖尿病の歌手 HANZO さんのコンサートを中心に開催しました。

内分泌疾患に関しては、常勤の内分泌学会専門医が不在の状態が続いておりますが、嘱託の内分泌専門医と定期的にカンファレンスを重ね、レベルアップを計っています。また毎週水曜日午後には、専門医の嘱託医による内分泌専門外来も設置しています。

甲状腺疾患は、潜在的に数多くの患者さんがおられ、県内を中心に、各医療施設からの相談も数多く寄せられています。当院には放射線治療施設も併設しており、バセドウ病や甲状腺癌術後のヨード内用療法にも対応しており、時には県外からの患者さんも受け入れています。

その他、原因の明らかでない電解質異常・低栄養状態などの患者さんや、どこの病院でも病態が明らかにされていない患者さんにも積極的に内分泌検査などを行い、病態解明を行っています。

認定看護師の紹介コーナー



## 集中ケア認定看護師

看護局 看護師 西尾 万紀



私は、2007年に日本看護協会が認定する集中ケア認定看護師の資格を取得しました。その後、集中治療室での勤務を経て、今年から病棟を中心に活動しています。

当院は、島根県唯一の救命救急センターであり、救命救急センター外来には、重症度を問わず年間約 22,000～23,000 名の患者さんが来院されます。そのうち、生命の危機的状態にある患者さんが集中治療室へ入院されます。集中ケア認定看護師として、集中治療室に入院された患者さんの重症化の回避や、早期回復のために援助を行い、一日でも早く集中治療室から退室できるような看護の実践を目指し、活動しています。また、患者さんだけでなく、家族の支援も大切にしています。生命の危機的状態にある患者さんの家族は、突然の出来事を受け入れることができないまま、様々な決断を求められ、身体的だけでなく精神的にも苦痛の状況に置かれています。その家族に対し、患者さんの病状が把握できるように情報を提供し、家族に寄り添い、家族の擁護者となって患者さんやその家族の意向を治療や看護に反映しています。そして、家族もケアに参加できるよう支援しています。

集中治療室から病棟へ退室された患者さんや、一般病棟に入院中の重症患者さんや家族に対し、適切な看護が継続して行われるように、病棟スタッフとともにカンファレンスや指導を行っています。そして、私自身が役割モデルとなり、フィジカルアセスメントを土台とした観察や看護をスタッフとともにを行い、支援しています。

院外の活動として、他病院での新入看護職員を対象に、フィジカルアセスメント研修を行っています。また、訪問看護師を対象に、人工呼吸器装着患者の看護について研修を行っています。

今後、医療機関の機能分化と強化、在宅医療の充実がすすむことが予測され、地域での看護師の役割の拡大が求められます。地域と連携を取りながら、患者さんにより良い看護が提供できるよう活動していきたいと考えています。



フィジカルアセスメント研修の様子





## 糖尿病患者会紹介

社会福祉士 中村 ともこ  
(糖尿病友の会事務局)

当会は昭和 45 年発足し、現在の会員数はスタッフも含めて 61 名です。具体的な活動としては、年 1 回の外出レクリエーションや 3 ヶ月に 1 回程度勉強会・食事会を開催しています。外出レクリエーションでは、島根大学病院医学部附属病院糖尿病友の会「いなほ」と合同で温泉へ出かけたり、当院の他の患者会と三次方面へ出かけるなど、他の会との交流の場にもなっています。

今年度の勉強会では薬剤師から「お薬や健康食品について」、理学療法士から「運動について」の講演を企画し、大変好評でした。また、毎年 11 月の糖尿病週間には啓発活動の一環として講演会を企画しており、今年は当院でコンサートも含めたイベントを開催しました。



理学療法士による運動指導

出雲圏域には、現在、当会以外にも島根大学医学部附属病院糖尿病友の会いなほ、出雲市立総合医療センターやくも会、出雲市民病院まめな会、斐川生協病院かなび会、嘉村医院あおぞら会、斐川やまもも健康の会の 7 つの糖尿病友の会がありますが、一昨年からは出雲市役所、出雲保健所も含めて、各友の会の会長と事務局が代表として参加する交流会を開催しています。この交流会は、それぞれの友の会活動や現状を報告し、意見交換を行うなかで活動の充実を図ることを目的としています。

今後とも会員同士が情報交換、ピアカウンセリング的な交流を行うことで QOL の向上に役立つよう様々な活動を行っていきたいと考えています。



管理栄養士による調理教室



食事会ではカロリー計算されたお弁当をいただきます



## 地域医療連携の状況

日頃は患者様のご紹介をいただきありがとうございます。  
H26年8月～10月の紹介件数、ネット・FAX利用状況をお知らせします。

紹介件数、ネット・FAX利用状況					
	紹介件数	ネット・FAX利用状況（内数）			
		まめネット		FAX予約	
		診療	検査	診療	検査
平成26年8月	1,421	169	25	258	64
9月	1,447	197	26	264	55
10月	1,493	219	31	296	79

## なごやかサロンから絵手紙体験のご案内

**なごやかサロン**はがん患者さんやご家族が集まり、病気にまつわる不安などについて経験者と話せる場です。

11月14日には、**絵手紙**にチャレンジしました。世話人さんが自分で育てられた野菜たちをモデルに、先生に教わりながら楽しいひとときを過ごしました。

今後も皆さんが楽しく集える機会をつくり、今までサロンに足を運びにくかった方が来て下さるきっかけになればいいと考えています。がん患者さん、ご家族、医療関係者の方の参加をお待ちしております。



第2回目の**絵手紙体験**をします。初心者の方、経験者の方、どなたでも参加できます。興味のある方はぜひご参加ください。

日時 **12月12日（金）10:00～12:00**

場所 **島根県立中央病院2階 なごやかサロン室**  
(やおよろず相談プラザ奥のエレベーターで2階へ)

参加費 **無料**

※道具はすべて準備します。

※時間の途中からの参加でも大丈夫です。

※事前申し込みはいりません。



なごやかサロンは毎月第2・第4金曜日 10:00～12:00 に開催しています。  
問い合わせ **がん相談支援センター** 電話：0853-30-6500